

## まちの話題



▲幻想的な光で来場者の道しるべとなった竹灯籠。



▲両子神社で8年ぶりに行われたふれあいまつり。縮元区の平林区による「太鼓浮立」



▶納所非公認キャラクター「納所びわ代」さんと横尾市長もかけつけました。

秋晴れの10月19日、「両子神社秋季大祭」通称「納所くんち」が行われました。新たな取り組みとして、納所地区の住民等で組織する「納所里づくり委員会（平成26年4月発足）」が、旧納所小学校から両子神社まで300mの“道しるべ”として竹灯籠を設置し、その優しい光で来場者をなごませました。

これは、今年から夜の部の奉納芸能会場を、納所会館から両子神社にもどし行われたため、納所里づくり委員会が、来場者のために安全にかつ、目で楽しんでもらおうと発案。真竹11本を切り出し、約300個を作成しました。

納所里づくり委員会の田淵厚会長は「道しるべとして設置した竹灯籠は、地元の竹を活用し、みんなで作成しました。歩きながら幻想的な風景を楽しんで欲しい」と新たな取り組みについて語りました。

また、納所びわを使った新名物のサイダー“ビワノミ”が、この日お披露目されると、準備した360本が完売。来場者は珍しい“びわ味”のサイダーを楽しみました。

### 新しい取り組みと新名物で大盛況！

#### 納所里づくり委員会の挑戦

西多久町の平野地区で10月5日、標高約190mに位置する棚田（300坪）を会場に、平野地区の農家10戸で構成する平野棚田米保存協議会（代表：小園敏則）主催で稲刈り体験が開催され、市内外から家族連れなど36人が参加しました。

今回の収穫体験は棚田の魅力の発信や稲刈り体験の定着を目指して行われたものです。

平野棚田米は、平野地区の良質な水と昼夜の温度差など、稲の生育に最適な環境のもとで育ったもので、品種は『夢しずく』。平成23年から直売所はじめ市内5か所・ホームページ（<http://www.hirano-tanada.com/>）で「平野棚田米」として販売されています。

稲刈り体験に先立ち、小園代表が「平野の棚田米は美味しいと評判も高く、福岡等からの注文も寄せられています。稲刈りと棚田米の試食を通じて、棚田米の魅力を体感してください」とあいさつ。

参加者は協議会会員の指導を受けながら刈り取り作業に汗を流しました。その後、参加者へ棚田米、しし鍋汁が振舞われ、秋晴れのもと食感豊かな料理に舌鼓を打ちました。

福岡市内から家族で参加した久家昌則さんは「自然豊かな土地で汗を流し、おいしい料理を堪能できました」と体験を振り返りました。

#### 平野棚田の稲刈りと散策！



▲黄金色に実った稲穂を丁寧に刈り取りました



▶棚田米としし鍋汁に舌鼓を打つ参加者

10/19 Sun.

### 花いっぱい为学校にしたい！



北多久生涯学習推進委員会による「花いっぱい運動」の一環として、北多久町の区長会、老人会、分館長会、体育協会、中央校関係者、一般市民、のべ20人が参加し、中央校校門前の空き地に60本のつつじの苗木を植樹しました。

園芸委員会の紫村花音さん（中央校6年）と一般参加の閉籠悠依さん（同校6年）は「水をあげるなど世話をし、綺麗な花を咲かせたいです」と話しました。

北多久生涯学習推進委員長の野田義雄さんは「環境活動に取り組み、児童の心も育てほしい」と活動を語りました。

10/8 Wed.

### 月明かりのもと、五穀豊穡の祈りを込めて観月会



西多久町の宝満山公園を会場に、五穀豊穡と秋の実に感謝する観月会が行われました。

観月会は西多久町を考える会（会長：飯守康洋）主催で、今年で11回目を迎える恒例行事。

会では、西多久町老人会サークルによるお誂いや詩吟、西多久町太鼓浮立保存会による太鼓の演奏が披露され、来場者は西多久産の具材を使ったしし鍋汁に舌鼓を打ちながら親睦を深めました。

当日は皆既月食も観測でき、澄み渡った夜空を眺めながら天体ショーも堪能。町内から参加した富永玲子さんは「太鼓の音色とともに月食も楽しめました」と振り返りました。